（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援エフ　飯倉教室			
○保護者評価実施期間	2025年2月1日	～	2025年2月9日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	35	（回答者数）	6
○従業者評価実施期間	2025年2月1日	～	2025年2月9日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	7	（回答者数）	7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月12日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	適切な支援の提供。	個別支援計画の作成時はミーティングを行い、児童発達支援管理責任者だけでなく職員の意見も踏まえて共通理解を図り作成するようにしている。毎日ミーティングを行い、生徒さんの良かった出来事や普段の様子と違っていたところなどの共有をしており、サービス提供記録とミーティングでの議事録で日々の記録をとっている。半年ごとにモニタリングを行い計画の見直しをしている。	こどもが自己選択できるよう自己決定をする力を育てるために研修や日々のミーティングを通して職員の質を上げる。
2	保護者への説明等。	保護者様からの連絡・要望・苦情は即座に共有し、対応している。エフ便りやHP内のブログ、インスタグラムなどを通して発信している。	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設けたり、きょうだい同士で交流する機械を設けたりする。事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図る。
3	非常時等の対応。	他教室で発生したものも含めヒヤリハットの共有を行っている。虐待防止の動画研修が行われている。	実践的な研修を行い、緊急時に即座に対応できるように対策をする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	環境・体制整備。	送迎の職員と教室で支援をする職員の人数を考慮した人員を配置する必要がある。	人員を確保する必要がある。
2	業務改善。	第三者による外部評価が職員全体に届いていないことがある。	外部評価の結果を全教室に周知を行う。
3	関係機関や保護者との連携。	医療機関や就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報をもらえる体制を整える必要がある。	保護者様に許可をいただいた上で問い合わせたり、施設の方向けの情報提供の書類を作成し、情報をもらえるようにする。